

インターバンクの声（2014年9月18日）

9月の連邦公開市場委員会（FOMC）を終えたニューヨーク外国為替市場では、ドルが急騰、特にドル円は6年ぶりとなる108円台の高値に上昇してきた。市場が米連邦準備理事会（FRB）による早期の利上げ可能性を確実視するために注目したのが、声明文の、「資産買い入れ終了後もゼロ金利政策を『相当な期間』維持する」の文言だったが、今回も労働市場にスラックがあるとして、この文言は維持された。このため声明発表の直後にドルが僅かに売られる局面もあったが、FOMC参加者による先々の政策金利見通しが引き上げられたことで、結局は利上げが当初予想よりも早まるのは必至だろうとの見方が広がったことが大きく影響したようだ。8月20日の103円台前半から2週間ほどで5円50銭のドル上昇となったが、ドルの上昇はまだ道半ばと見るのか、あるいはある程度の時間は踊り場を迎えると見るのか、判断が分かれるところだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。